

志がある人にチャンス、本店転勤（東京）での学び

2009 年：北京科技大学日本語専攻卒

趙 陽

2010 年：三井物産（中国）有限会社に新卒入社、元業務部配属

Zhao Yang

2011 年：金属資源部・ オルドス出向

2014 年：財務会計部に異動

2022 年：金属資源部に異動、本店転勤

2024 年：金属資源部 現在に至る



Q：あなたは三井中国に入社してから、1 番成長したと思うことは何ですか？

A：

オルドス電力冶金（以下オルドス）という当社が出資している関係会社への出向経験です。2011 年～2014 年の 3 年間（入社 2 年目～4 年目）、オルドス財務部への当社出向者のアシスタントとして内蒙古で勤務しました。オルドスは、三井中国で最大の投資プロジェクトであり、グループ傘下に炭鉱・発電・冶金・化学品・水処理等 5 つの事業を運営しています。出向当時、既に 50 社以上の子会社、12,000 人以上の従業員を保有する巨大会社となっており、現在も更に大きく成長し続けています。財務部では、事業計画の取り纏めや子会社の業績管理、財務分析等を主に担当していましたが、その他にも、石炭鉱や合金鉄の買収案件、新規 PVC プロジェクトの投資案件、会社の増資等様々な大きなイベントに携わることが出来ました。

Q：1 番苦労したことは何ですか？どうやって困難を乗り越えましたか？

A：

1 番苦労したことは、本店への転勤です。

2022 年～2024 年（入社 13 年目～14 年目）に、東京の三井物産本店で働く機会を頂き、1 年目は事業投資、2 年目は貿易物流に携わっています。それまでは中国で 12 年間勤務し、コーポレートから営業にわたり様々な業務を経験したので、ある程度仕事に自信を持って東京へ来ましたが、想像以上に未知の領域との遭遇が有り、30 代後半の年齢で再び新人の気持ちを覚えました。勿論完全に外国語の環境で仕事することはチャレンジの一つでしたが、それ以上に、三井物産本店の仕事量は三井中国と桁違いで、扱うビジネスの金額も 100 億円単位となるため、担当として求められる視野の広さ、専門性の深さは海外店より 2 段、3 段レベルアップが必要となり、周囲のペースに追いつくにはさらなる努力が必要でした。幸いなことに、会社の上司は海外店から転勤してきたスタッフの苦労を理解してくださり、様々な研修機会を頂くだけではなく、「焦らないように」と優しい言葉で慰めてくださり、日々の悩みも相談させていただいています。自分の努力次第で、仕事を任せて頂けるようになり、更に成長できると思います。

Q：三井で働く上で、どのようなことが 1 番重要だと思いますか？

A：

「謙虚」、「自由闊達」を体現することだと思います。

三井物産は旧三井物産の誕生（1876 年）から 148 年間の歴史がありますが、時代に合わせて事業を変容・拡大し続けてきた理由の一つは、「謙虚かつ自由闊達な社風、またそのような人格を持っている社員が多くいること」だと考えています。

三井物産には、16 の事業本部があり、鉄鉱石や石油のような歴史の長い商品の販売から、量子コンピューターや生成 AI など最先端の技術開発まで幅広い領域で事業展開しています。全ての事業/商品にはライフサイクルがあるので、一つの事業/商品に固執して、新しいチャレンジをしないといつ

か必ず淘汰されてしまうと思います。三井物産は、常に将来に向けて新事業創出にチャレンジし、ポートフォリオの見直しをしています。

このような挑戦を続ける三井物産の社員として、謙虚に外部変化を受け止め、自身の Reskilling を通じて時代に淘汰されない努力が重要です。

Q：三井物産は「人の三井」と社外から称されることがありますが、これをどのように理解していますか？

A：

「人の三井」とは、三井が「志がある人にチャンスを与える/夢ある人を応援する」会社だと理解しています。三井物産は新しいことへの挑戦を後押しする会社であり、会社の Vision に「挑戦と創造」、会社の Value に「個から成長を」、「多様性を力に」とある通りです。

具体的には、三井物産は毎年世界中で合計数千億円の投資を実行しています。これらの投資は、最初はひとりの担当者のアイデアから始まり、その担当者がわたくしのアイデアに賛同する社内の仲間や社外のパートナー、専門家の力を借りながら、交渉を重ね、案件の戦略性・収益性・実行性を高め、会社に認められた案件です。

また三井物産には「Moon Creative Lab」という、従来の投資判断プロセスを超えて、三井物産社員がゼロから事業をつくる支援している組織があります。デザイン思考を提唱・世界に広めたアメリカのデザインファーム IDEO をパートナーとして、デザイナーやエンジニアなどの専門家とともに、アイデアを早期に具現化して、市場で素早く検証を繰り返し、新しいビジネスへと発展させる試みです。「人の三井」とはまさに、このような一人ひとりの力を信じ、ボトムアップを体現した会社であると感じています。

